



八戸ブックセンター企画事業報告書 (平成30年度版)

まちづくり文化スポーツ部
まちづくり文化推進室八戸ブックセンター

目次

基本計画書（施設の位置づけ）	1
基本計画書（施設運営の基本方針）	2
方針1 本を「読む人」を増やす	
(1) 本のまち読書会	3
(2) ブック・ドリンクス	4
(3) セレクト・ブックストア（本の陳列・販売）	5
(4) 読書会ルームの活用	6
方針2 本を「書く人」を増やす	
(1) 執筆・出版ワークショップ	7
(2) カンヅメブースの活用	8
方針3 本で「まち」を盛り上げる	
(1) ギャラリー展示	9
(2) パワープッシュ作家	11
(3) 本のまち八戸ブックフェス	12
(4) 市内書店との連携 （市内書店個性化プロジェクト）	13
(5) ブックサテライト増殖プロジェクト （フリーペーパーの発行）	14
(6) 「本のまち八戸」各種事業との連携	15
参考データ① 平成30年度八戸ブックセンター決算額	16
参考データ② 来館者数の推移	17
参考データ③ 販売冊数、販売額の推移	
参考データ④ 視察受入状況	18
参考データ⑤ アンケート集計結果	19

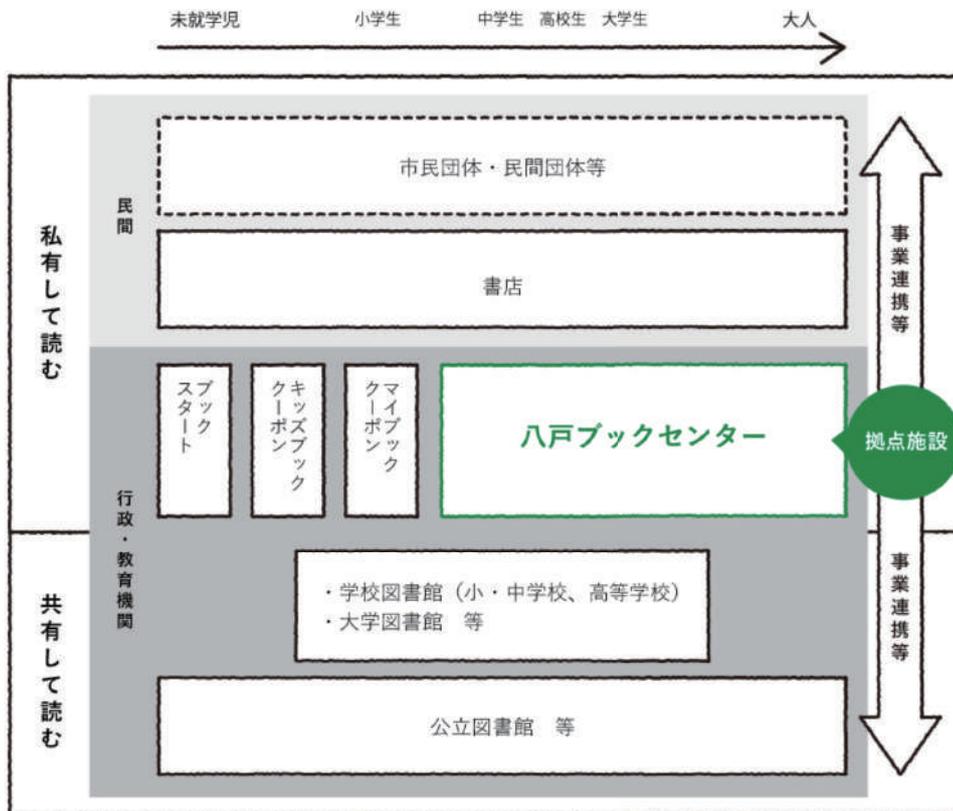
八戸ブックセンター基本計画書（一部抜粋）

○施設の位置づけ

八戸ブックセンターは、政策公約に掲げる「本のまち八戸」を目指す取り組みの、乳幼児（生後90日～1歳未満）とその保護者を対象とした「ブックスタート事業」、小学生を対象とした「マイブック推進事業」、また、3歳児とその保護者向けに新たに創設した「“読み聞かせ”キッズブック事業」に続く、大人を主な対象とした施設です。また、八戸ブックセンターは中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民の豊かな心を育み、本のある暮らしが当たり前となる文化の薫り高いまちを目指すため、本と出会う新たな機会の創出、本を通じた市民交流及びまちづくりの拠点施設としても位置づけています。

◎「本のまち八戸」の概念図

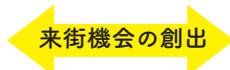
サービスの対象者



◎まちづくりにおける八戸ブックセンターの効果



八戸市 / 中心街



生活の質を高める魅力的な都市機能として、本の購入に止まらない、観光、移住、企業誘致などへの波及効果が期待される。



八戸ブックセンター



「はっち」、「マチニワ」、新美術館、図書館などの公共施設や民間書店などの事業連携により、街の回遊性を高める。



はっち・美術館など

○施設運営の基本方針

- 方針1 本を「読む人」を増やす
- 方針2 本を「書く人」を増やす
- 方針3 本で「まち」を盛り上げる

八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、あたらしい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行していきます。

方針1 本を「読む人」を増やす

「本好き」はまず、本を「読む人」です。本を読むことは、日々の生活を楽しくする、とても豊かなことですが、それが習慣になるまでは、少し時間がかかることでもあります。八戸ブックセンターは、本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたいくなるような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントの開催などを行います。

方針2 本を「書く人」を増やす

「本好き」が高じて、本を「書く人」になることもあります。本を「書く人」が多いまちは、豊かな想像力や思考力にあふれ、魅力的なまちとなることでしょう。当市は、三浦哲郎という偉大な作家を生んだ土地でもあります。八戸ブックセンターは、本を「書く人」を増やすために、執筆するためのブースを備え、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催などを行います。

方針3 本で「まち」を盛り上げる

本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものでもあります。八戸ブックセンターは、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。

この基本方針に則り、子どもから大人までが本と出会い、本に親しむ環境づくりに取り組んでいく中で、八戸ブックセンターは主に大人を対象とし、市の直営による運営としますが、民間書店や図書館と適切な機能分担を図りながら、これまで手に触れる機会が少なかった本に出会える場の創出という、本に関する新たな公共サービスを提供することとしています。

方針1 本を「読む人」を増やす

(1) 本のまち読書会

【内容】

ブックセンターが主催する読書会で、様々なテーマ本などを設定するほか、時にゲストを招き開催。テーマ本への理解だけでなく、参加者間の本を通じた交流も深め、読んでいない本や新たなジャンルへの興味を喚起する機会となっている。

【実施状況】

- ・平成30年度は、計23回開催し、延べ228名が参加。
- ・平成30年12月に、松平定知氏（元NHKアナウンサー）をゲストに招き、朗読&講演会「誤った朗読術」を開催。（八戸市公会堂を会場とし、約400名が参加）

【参加者の声（一部抜粋）】

- ・様々な分野に触れていて、今まで興味がなかったことについて調べたくなった。
- ・同じ本でも、参加した人それぞれの感じ方を聞くことができ、新鮮な体験となった。
- ・読書会に参加して、本屋の利用の仕方、見方が変わり、本屋の面白さが伝わった。



読書会（「もう一人の吾行くごとし秋の風」を読む）



クロストーク（編集者 坂本政謙さんを囲んで）



読書会（韓流入門「MAPS」からはじめる世界の国々）



松平定知 講演&朗読会「誤った朗読術。」

【31年度の取組】

- ・毎回、一定数の参加者があり好評を得ていることから、今後も様々なテーマを設定し、月2～3回程度の頻度で、ブックセンター主催の読書会を開催する。
- ・令和元年9月頃に、八戸市読書団体連合会と連携し、朗読に関するワークショップを開催予定。

(2) ブック・ドリンクス

【内容】

お薦めの本を持ち寄るなど、ドリンクを飲みながら本について語り合う交流会。「本のまち読書会」と違い、テーマを設定せず予約申込も不要としており、気軽に参加してもらえることから、本好きが集う場所となっている。また、紹介したい本のコメントなどを作成して参加するなど、常連の参加者も増えてきている。

【実施状況】

- ・毎月最終金曜日の夕方に開催しており、平成30年度は、延べ89名が参加。
- ・平成30年11月には、書評家の豊崎由美氏をゲストに招き、豊崎氏お薦めの本を紹介してもらうブックドリンクススペシャル企画を実施。(約30名が参加)

【参加者の声（一部抜粋）】

- ・決められたテーマがないため、自分が読まないジャンルの本に出会えた。
- ・参加している人の話を聞いているだけでも面白く、参加したことにより、本を読むようになった。
- ・豊崎さんの本の紹介がわかりやすく面白く、気になる1冊に出会えた。



ブックドリンクスの様子



ブックドリンクススペシャル

「続”フーテンのトヨさん”が八戸にやってくる！」

【31年度の取組】

- ・毎月最終金曜日の夕方に定期開催
- ・令和元年11月頃に、書評家の豊崎由美氏を招き、スペシャル企画を実施予定

(3) セレクト・ブックストア (本の陳列・販売)

市内民間書店では出会わない本（主に、海外文学や人文・社会科学、自然科学、芸術などの分野）を中心に、専門家向けではなく、一般の方も手に取りやすい内容の本を主として選書し、テーマ別の陳列を行っている。本への興味関心を高め、本との偶然の出会いを通し、広い世界や多様なジャンルへの知的好奇心や探究心の醸成に寄与するようなセレクト・ブックストアを目指している。

【30年度に取り上げたテーマ、フェア棚など】

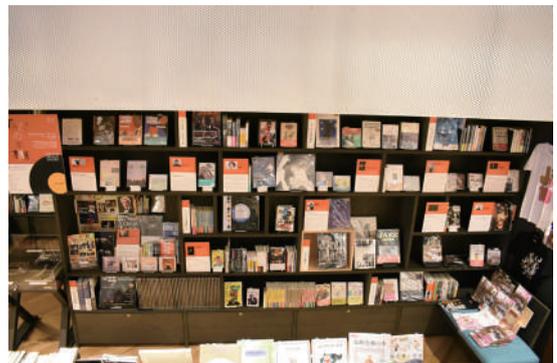
- ・八戸にゆかりのある人などに選書してもらう「ひと棚」
- ・一般公募で自由なテーマにより選書してもらう「わたしの本棚」
- ・八戸出身作家や八戸の人が書いた本の棚
- ・南郷ジャズフェスティバルと連携した「JAZZの本棚」
- ・市内や県内の文化施設（美術館、博物館、フォーラム八戸など）やイベントとのコラボによる棚
- ・マイブুকクーポン事業との連携による棚
- ・書評家・豊崎由美氏のお薦め本の棚 など

【参加者の声（一部抜粋）】

- ・普段出会うことのない本に出会えた
- ・テーマによる陳列が面白い
- ・今まで興味がなかったジャンルにも興味が湧くことができた



豊崎由美のお薦め本棚



JAZZの本棚



わたしの本棚



「青森県史」刊行記念棚

【31年度の取組】

- ・ブックセンターのコンセプトに則り、本との偶然の出会いを創出できるよう、選書・陳列を行う。
- ・市内外の美術館や博物館などの文化施設などと連携を図り、その施設・事業との相乗効果が得られるような選書・陳列を行う。

(4) 読書会ルームの活用

読書会ルームについては、市内の読書団体などへの貸出のほか、ブックセンター主催の企画事業にも活用している。

【読書会ルーム利用状況】

期間	貸館		自主事業	
	計	月平均	計	月平均
平成 28 年度 (H28.12 ~ H29.3)	20 件	5.0 件	5 件	1.3 件
平成 29 年度 (H29.4 ~ H30.3)	50 件	4.2 件	78 件	6.5 件
平成 30 年度 (H30.4 ~ H31.3)	57 件	4.8 件	69 件	5.8 件

【現在の活用状況】

- ・市内の読書団体へ読書会用に貸し出しているほか、朗読会など、発表の場としても活用。
- ・貸館、自主事業で利用していないときは、読書スペースとして開放している。



トークイベントでの利用時



読書スペースとしての利用時

【31 年度の取組】

- ・今後も、読書団体などによる読書会の会場としてご利用いただくとともに、ブックセンター主催の企画事業（読書会、ワークショップ、トークイベントなど）の実施に活用していく。
- ・利用していない時間帯は、来館者の読書スペースとして開放。
(平成 30 年度より出版社発行の PR 誌や業界紙などを陳列し、閲覧もできるスペースとしている。)

方針2 本を「書く人」を増やす

(1) 執筆・出版ワークショップ

【内容】

小説や自分史の書き方、電子書籍の作り方など、執筆や出版に関するワークショップ。

執筆や出版についての知識を深めることを通し、また、同じ「書く」という志を持つ方々がワークショップを機会に集うことが刺激となり、本を書くきっかけづくりとなっている。

【実施状況】

講師を招き、下記内容で計5回開催し、延べ65名が参加。

- 出版する際の権利や法律に関する講義（講師：フリーライターの鷹野凌氏）
- 電子出版に関するワークショップ（講師：フリーライターの鷹野凌氏）
- 中心街を歩きながら、郷土史を執筆するうえでの取材方法、調べ方などに関するワークショップ（講師：滝尻善英氏）
- 「マチを学ぶ、マチで学ぶ」をテーマに、弘前大学サテライトと連携したトークイベント（講師：滝尻善英氏）
- 短い小説「ショートショート」の書き方を学ぶワークショップ（講師：小説家の田丸雅智氏）



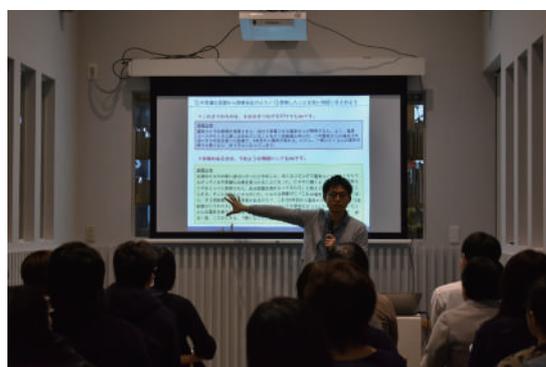
電子出版ワークショップ



郷土史に関するマチ歩きワークショップ（会場：来迎寺）



「マチを学ぶ、マチで学ぶ」トーク（会場：弘大サテライト）



超ショートショート講座

【31年度の取組】

小説家、ノンフィクション参加、郷土史作家をゲストに、ワークショップなどを開催予定。

(2) カンヅメブースの活用

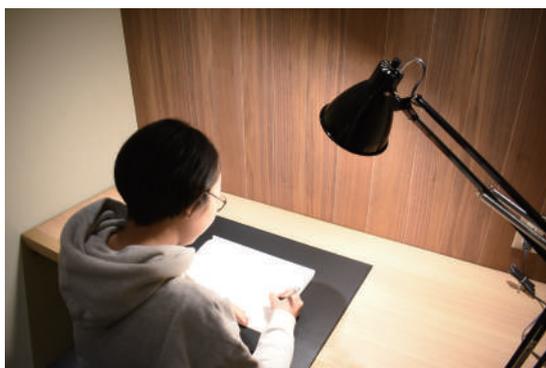
カンヅメブースについては、本などを執筆したい人向けに貸出しており、利用するには、活動内容などを教えていただき、「市民作家登録」をしていただいている。

【市民作家登録者、カンヅメブース利用状況】

期間	市民作家登録者		カンヅメブース利用件数	
	登録者数	(累計)	計	月平均
平成 28 年度 (H28.12 ~ H29.3)	77 人	77 人	65 件	16.3 件
平成 29 年度 (H29.4 ~ H30.3)	66 人	143 人	174 件	14.5 件
平成 30 年度 (H30.4 ~ H31.3)	51 人	194 人	153 件	12.8 件

【現在の活用状況】

- ・市民作家登録をするだけでなく、出版に向けた相談で来館されるケースも出てきている。
- ・カンヅメブースを利用して書いた本が出版されたケースも出てきている。
- ・市民が書いた本については、センター内で紹介（閲覧のみ）している。
- ・平成 30 年 10 月から開始したギャラリー企画「紙から本ができるまで展」の一環で、八戸の詩人「村次郎」の詩集を出版した際、村次郎という人物、村次郎が過ごした八戸の風土や詩への想いなどについて、詩人の管啓次郎氏がカンヅメブースを利用して執筆。
- ・フリーペーパー「ほんのわ」で、出版する上で手助けとなる市内の印刷所、デザイン会社などを紹介。



カンヅメブース



八戸市民が書いた本の紹介コーナー

方針3 本で「まち」を盛り上げる

(1) ギャラリー展示

【内容】

八戸ブックセンター主催、もしくは関係機関との共催による企画展示。

本や本にまつわる出来事の奥深さや面白さを多角的な視点から伝えることを通して、多様な人々の関心を喚起し、まちを盛り上げていく。

【実施状況】

期間	展示名	内容など
H30.3.14～H30.4.22	祖敷大輔『星空の谷川俊太郎質問箱』原画展	<ul style="list-style-type: none"> ・「星空の谷川俊太郎質問箱」の装画、挿絵を担当した、祖敷大輔氏の原画展。 ・来館者参加型の「みんなの質問箱」も実施。
H30.5.3～H30.7.8	1冊の本から見えるオランダの世界～色、デザイン、建築～	<ul style="list-style-type: none"> ・牡丹靖佳（現代美術作家）の「ロイドホテルへようこそ」を切り口とした、オランダという国の歴史や文化などを紹介する展示。 ・牡丹氏によるトーク、ワークショップも実施。
H30.7.14～H30.9.30	cherry chill will.写真展 RUFF,RUGGED-N-RAW	<ul style="list-style-type: none"> ・cherry chill will（八戸出身の写真家）の写真集刊行を記念とした展示。 ・cherry氏によりトーク、サイン会のほか、ライムスター（HIPHOPグループ）のトーク、中心街ライブハウスでのライブも実施。
H30.10.6～H30.10.21	なんごうプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・南郷アートプロジェクトの「なんごう小さな芸術祭」の「なんごうプレゼンテーション」として、南郷を紹介した展示。
H30.10.27～H31.1.27	紙から本ができるまで展2018	<ul style="list-style-type: none"> ・三菱製紙八戸工場で作られた紙を使用した本を実際に出版し、その本が出来るまでの過程を紹介した展示。 ・八戸出身の詩人村次郎の詩集を刊行。 ・刊行記念トーク、「村次郎の会」との連携イベントも実施。
H31.2.9～H31.4.21	太田泰友ブックアート展 背を見て育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・太田泰友（ブックアーティスト）のブックアート作品の展示を通して、本の新しい可能性を探る展示。 ・太田氏によるトークイベントも実施。

【31年度の取組】

- ① H31.4.27～R1.7.21 町口覚、佐藤亜沙美、大西隆介の3人のブックデザイナーがつくる本の仕様書を展示する「ブックデザイナーの仕様書展」
- ② R1.7.31～11.4 三菱製紙八戸工場で作られた紙を使用した本を実際に出版し、その本が出来るまでの過程を紹介した展示。中居裕恭（八戸出身の写真家）の写真集を出版。

【ギャラリー展示写真】



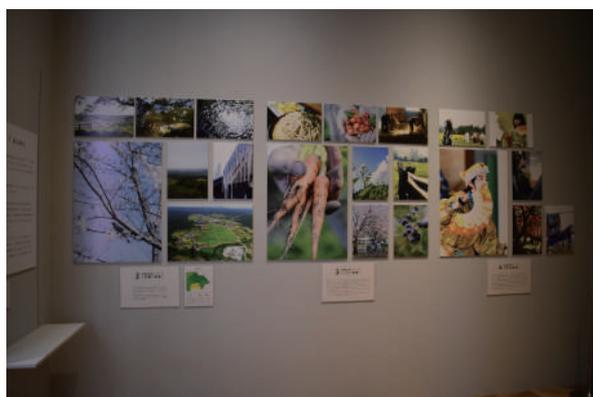
祖敷大輔『星空の立川俊太郎質問箱』原画展



1冊の本から見えるオランダの世界
～色、デザイン、建築～



cherry chill will. 写真展 RUFF,RUGGED-N-RAW



なんごうプレゼンテーション



紙から本ができるまで展 2018



太田泰友ブックアート展「背を見て育つ」

(2) パワープッシュ作家

【内容】

- ・特定の作家を「パワープッシュ作家」に選び、刊行記念トークイベントを開催するほか、市内書店とも連携したフェアなどを開催するもの。
- ・八戸に関係する本でパワープッシュを行ったことにより、市民が本に興味を持ってもらうきっかけづくりになっている。

【実施状況】

(1) 「青森県史」

- ・青森県史全 36 巻完成を記念し、県との共催でトークイベントを開催

(2) 「馬場のぼる作品集」(著者：馬場のぼる)

- ・三戸町出身作家の作品であることから、青森県立美術館と連携し、関連トークなどを開催

(3) 「ライフイズベリーショート」(著者：中居克博)

- ・八戸出身作家の初刊行作品であることから、一定期間在廊していただき、関連トークなどを開催

(4) 「空飛ぶ院長、医療過疎を救う！青森ドクターヘリ劇的救命日記2」(著者：今明秀)

- ・八戸市立市民病院院長の新刊刊行記念として、八食センターでトークイベントを開催

(5) 「城下町南部八戸の歴史」(著者：三浦忠司)

- ・八戸出身作家の新刊刊行記念として、八食センターでトークイベントを開催

【参加者の声 (トークイベントアンケートから一部抜粋)】

- ・自分が生まれ育ったまちの歴史を知るきっかけとなった。(青森県史、八戸の歴史参加者)
- ・普段あまり聞くことが出来ない内容で、興味深く聞くことが出来た。(中居氏、今氏トーク参加者)



「馬場のぼる」フェア棚



八戸市立市民病院 今院長トークイベント (会場：八食センター)

【31年度の取組】

- ・八戸出身の絵本作家 まつばらのりこ氏の刊行記念イベントを実施。(令和元年8月)
- ・八戸出身の調理師 渡貫淳子氏の刊行記念イベントを実施予定。(令和元年10月)
- ・その他、八戸にゆかりのある作家、八戸に関連する本などについて、読書会やトークイベントなどで取りあげていく。

(3) 本のまち八戸ブックフェス

【内容】

- ・年に一度の行事として、様々な団体と連携し、一箱古本市やトークイベントなど、本に関する様々な企画を、一定期間集中的に開催する。
- ・ブックセンターが開館するまでは、「はっちの一箱古本市」としてイベントを実施していたが、平成 29 年度からは、ブックセンターが中心となりイベントを実施している。
- ・古本市のほか、市内書店ブースなども設置しており、出店者とお客さんとの交流が図られている。

【実施状況】

・9月末のホコテン開催日に、ブックセンターとはっちを主会場に実施。

- ①一般応募型による一箱古本市（21 店舗）
- ②市内の新刊・古書店の出店（5 店舗）
- ③市内書店の特徴的な書店員、東京の書店店主によるトークイベント
- ④絵本展、絵本読み聞かせ会
- ⑤学校図書館の除籍本無料配布
- ⑥移動図書館車の展示
- ⑦ビブリオバトル in 八戸の予選会



一箱古本市、移動図書館車（会場：マチニワ）



市内書店ブース（会場：マチニワ）



市内書店員トークイベント（会場：はっち）



東京の書店トークイベント（会場：はっち）

【31 年度の取組】

- ・9月 21 日（土）に、マチニワ・はっち・ブックセンターを会場に実施。
- ・一箱古本市など、平成 30 年度に実施したもののほか、出版社、飲食のブースも設置予定。
- ・庁内の本のまち八戸事業関係課（図書館、教育指導課、子育て支援課、八戸ポータルミュージアム）のほか、市内書店などとも連携したイベントを実施予定。

(4) 市内書店との連携（市内書店個性化プロジェクト）

【内容】

- ・市内書店と情報交換の場を設け、その書店の個性や立地上の特性、スタッフの関心領域などに合わせた、個性ある棚づくりをサポートする。

【実施状況】

市内書店との情報交換会を実施

- ・民間書店での勤務経験もある、一関図書館副館長の伊藤清彦氏を招き、図書館員も一緒になり、トーク、情報交換などを実施。

【その他の連携状況】

- ・八戸に関係する本が出版される際、市内書店に出版社からの刊行情報を提供。
- ・市内書店のフェア情報などをブックセンターに提供してもらい、ブックセンターのホームページ等からも情報発信。
- ・「本のまち八戸ブックフェス」において、特徴ある市内書店の書店員によるトークイベントを開催。



市内書店との情報交換会

【31年度の取組】

- ・令和元年9月開催の「本のまち八戸ブックフェス」において、下記事業を実施予定。
 - ①自店の特徴などを紹介する、市内書店の販売ブースをマチニワ、はっちに設置。
 - ②市内書店の書店員をゲストに、自店のこれまでの取り組みを紹介するなど、トークを実施。
- ・市外から特徴ある書店の方をゲストに招き、市内書店の書店員を対象としたトーク（情報交換）を実施予定。（令和2年2月頃）
- ・八戸関連の書籍が出版された際などを中心に、出版社からの情報を市内書店に提供。
- ・市内書店のフェア情報などを、ブックセンターのホームページ等から発信。

(5) ブックサテライト増殖プロジェクト（フリーペーパーの発行）

【内容】

- ・市内の小売店や飲食店、公共施設に呼びかけ、「ブックサテライト」として小さな本箱を設置し、市内全域に拡がるさまざまな本棚スポットをめぐる楽しさを創出する。
- ・「ブックサテライト」のほか、本のまち八戸について紹介するフリーペーパー「ほんのわ」を発行。

【実施状況】

- ・ブックサテライトとして、下記の施設が参加している。
 - ①ドトールコーヒーショップ八戸十三日町店
 - ②スターバックスコーヒー八戸田向店
 - ③スターバックスコーヒー八戸城下店
 - ④八戸市水産科学館マリエント
 - ⑤八戸市博物館
 - ⑥はちのへまちなかアートラボ Co 部屋
 - ⑦八戸市立市民病院周産期センター（平成30年度追加）



ドトールコーヒーショップ八戸十三日町店



スターバックス八戸田向店



八戸市博物館



八戸市立市民病院周産期センター

【31年度の取組】

- ・引き続き、市内の小売店や飲食店、公共施設に呼びかけ、ブックサテライトを増殖させる。
- ・令和元年7月から、ブックスポット（販売）としてフォーラム八戸が参加。
- ・市内金融機関が参加予定（令和元年8月頃）
- ・今年度内に増えた施設の情報も含めたフリーペーパーを発行する。

(6) 「本のまち八戸」 各種事業との連携

【内容】

八戸ブックセンターを「本のまち八戸」の拠点施設として位置づけており、各種事業において、担当部署との連携により実施している。

【実施状況】

①マイブック推進事業（担当部署：教育指導課）

- ・ブックセンターで「おすすめブックリスト」を作成し、マイブッククーポンと一緒に配布。
- ・ブックセンタースタッフが市内小学校へ訪問して行う「出張ブックトーク」を実施
平成30年度は10校で実施。平成31年度は延べ19校で実施予定。

②読み聞かせキッズブック事業（担当部署：子育て支援課）

- ・「本のまち八戸ブックフェス」で行った絵本展に使用する絵本をブックセンターで選定。
- ・平成31年度について、クーポンの配付は終了したが、お薦め本リストの作成などを予定。

③図書館事業（担当部署：図書館）

- ・マイブック推進事業での出張ブックトークを図書館職員と一緒に実施。（平成31年度～）
- ・相互で企画事業の連携実施。
- ・ブックセンターでの企画事業において、入手困難な本について図書館の本を利用。
- ・南郷図書館のイベントにブックセンタースタッフが選者として協力。

④教育機関との連携（平成30年度～）

- ・市内中学校に訪問し、学校司書・図書ボランティアと連携したワークショップ・協同授業などを開催。
- ・県内、三八地区の高等学校図書委員研修会に出席し、ワークショップなどを開催。



出張ブックトーク（小学校）



ワークショップ（中学校）



図書委員研修大会（高等学校）



協同授業（中学校）

(参考データ① 平成30年度 八戸ブックセンター決算額)

【歳入】

単位：千円

科 目		金 額	
事業に伴う収入	使用料	ブックセンター使用料（ドリンクスタンド分）	546
	国庫支出金	社会資本整備総合交付金	2,809
	寄付金	ブックセンター事業費寄付金	1,532
	繰入金	地域振興基金繰入金	27,000
	諸収入	書籍売上収入	13,623
		その他雑入（社会保険料等）	1,710
小 計		47,220	
一般財源（税等）		48,661	
歳入合計		95,881	

【歳出】

A.選書、企画事業の実施に係るもの

単位：千円

科 目		金 額
人件費	職員3名、嘱託職員3名、臨時職員1名分	36,693
報償費	自主事業謝礼	2,211
旅費	自主事業等旅費	1,169
需用費	食糧費	137
役務費	通信運搬費等	710
委託料	事業ディレクション業務等	6,759
歳出合計		47,679

B.本の販売等に係るもの

科 目		金 額
役務費	手数料（クレジットカード決済手数料）	39
委託料	書籍等仕入販売返品業務委託料	26,151
	（うち書籍仕入分）	12,068
	（うち販売返品業務等分）	14,083
歳出合計		26,190

C.建物の維持管理及び一般事務経費に係るもの

科 目		金 額
需用費	消耗品費	659
	光熱水費	1,026
	修繕料	415
	小 計	2,100
役務費	手数料	18
	火災保険料	65
	小 計	83
委託料	清掃、廃棄物収集運搬業務	2,080
	その他（ホームページ運用保守業務等）	421
	小 計	2,501
使用料及び賃借料	建物等借上料	15,344
	その他（複写機使用料等）	1,344
	小 計	16,688
備品等購入費	庁用備品等購入費	640
歳出合計		22,012

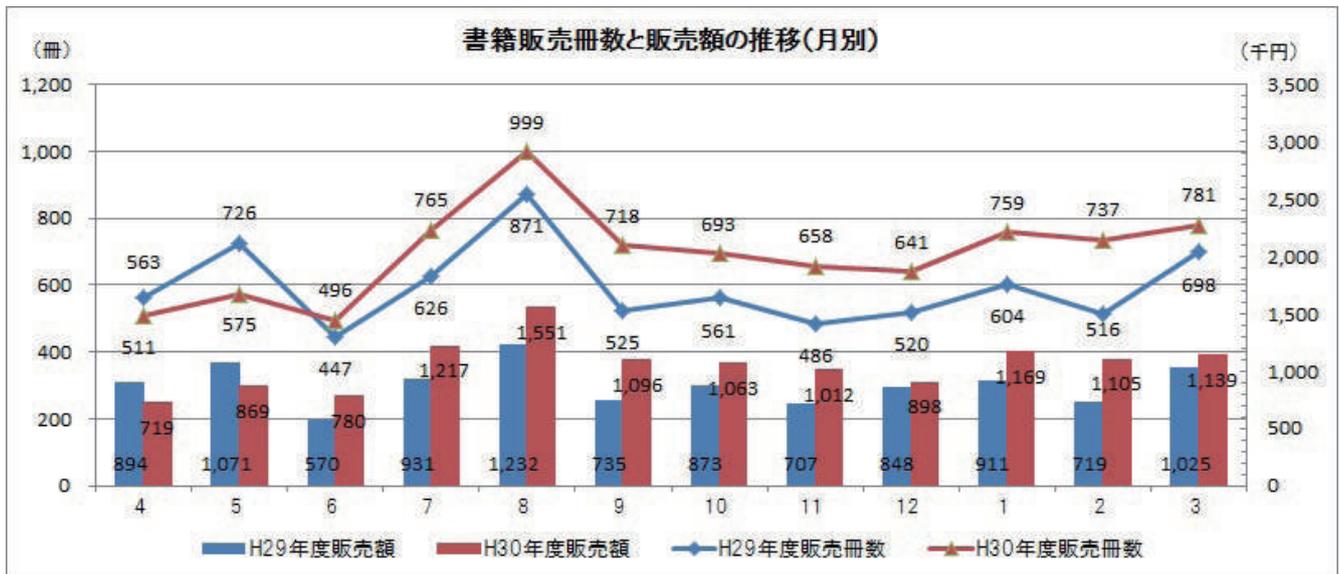
歳出合計A+B+C	95,881
-----------	--------



●来館者数

	累計	月平均	1日平均
平成29年度	114,599人	9,550人	368人
平成30年度	125,983人	10,499人	406人

(参考データ③：販売冊数、販売額の推移)



●販売冊数

	販売冊数	月平均	1日平均
平成29年度	7,143冊	595冊	23冊
平成30年度	8,333冊	694冊	27冊

●販売金額
(書籍のみ)

	販売金額	月平均	1日平均
平成29年度	10,516,785円	876,399円	33,816円
平成30年度	12,620,094円	1,051,675円	40,710円

●販売金額
(書籍+雑貨)

	販売金額	月平均	1日平均
平成29年度	11,176,631円	931,386円	35,938円
平成30年度	13,623,253円	1,135,271円	43,946円

(参考データ④：視察受入状況)

【機関別】

区分		件数	人数
議会関係者	市町村議会議員	30	223
	都道府県議会議員	1	1
	国会議員	1	20
行政関係者	市町村職員	19	207
	都道府県職員	2	3
	国職員	2	8
教育機関関係者	小中学校	3	68
	大学	11	18
出版編集等関係者	出版社	5	9
	製紙会社	1	4
	その他	1	3
その他（商工会関係、個人等）		36	362
合計		112	926
(県外計)		100	705

【月別】

	件数	人数
平成30年4月	3	5
平成30年5月	8	39
平成30年6月	2	9
平成30年7月	15	146
平成30年8月	7	28
平成30年9月	12	51
平成30年10月	24	316
平成30年11月	11	114
平成30年12月	8	73
平成31年1月	9	28
平成31年2月	10	83
平成31年3月	3	34
合計	112	926

(参考データ⑤：アンケート集計結果)

- (1) 実施期間 平成30年4月13日(金)～平成31年3月31日(日)
(2) 実施場所 八戸ブックセンター内
(3) 回答件数 140件
(4) 結果内容

Q1 年齢

19歳以下	30	21.4%
20代	15	10.7%
30代	22	15.7%
40代	27	19.3%
50代	20	14.3%
60代以上	26	18.6%
未記入	0	0.0%
合計	140	100.0%

Q2 どちらからお越しですか？

市内	46	32.9%
市外	94	67.1%
合計	140	100.0%

【市外】 県内(9)、北海道(4)、東北(18)、関東(23)、近畿(4)、外国(3)、不明(22)

Q2-1 交通手段は？(市内在住)

バス	15	34.1%
鉄道	0	0.0%
自家用車	20	45.5%
徒歩・自転車	9	20.5%
その他	0	0.0%
合計	44	100.0%

Q 2 - 2 勤務先がある場合の勤務先の場所は？（市内在住）

中心街	3	50.0%
郊外	3	50.0%
合計	6	100.0%

Q 2 - 3 滞在期間は？（市外からの来館）

日帰り・通過	28	31.5%
宿泊	61	68.5%
合計	89	100.0%

Q 2 - 4 宿泊先は？（市外からの来館）

中心街	31	50.8%
新幹線八戸駅周辺	9	14.8%
その他	18	29.5%
未記入	3	4.9%
合計	61	100.0%

Q 2 - 5 八戸にお越しの目的は？（複数回答あり）

ビジネス	8	8.0%
観光	34	34.0%
帰省	15	15.0%
ブックセンター	28	28.0%
その他	15	15.0%
合計	100	100.0%

Q 3 ブックセンターへお越しいただいたのは何回目ですか？

初めて	97	69.3%
2～3回目	23	16.4%
4回目以上	20	14.3%
合計	140	100.0%

Q4 ブックセンターを何で（どこで）知りましたか？（複数回答あり）

チラシ	8	4.6%
行政情報	21	12.1%
インターネット・SNS等	22	12.7%
新聞記事	24	13.9%
テレビ	18	10.4%
雑誌等	8	4.6%
人づて、口コミ	49	28.3%
その他	23	13.3%
未記入	0	0.0%
合計	173	100.0%

Q5 ブックセンターの雰囲気はいかがですか？

非常に良い	107	78.1%
良い	23	16.8%
普通	7	5.1%
悪い	0	0.0%
とても悪い	0	0.0%
未記入	0	0.0%
合計	137	100.0%

Q6 「市内書店ではあまり並んでいない本を選定」し、市内書店や図書館とは違い、様々な「テーマに沿った陳列」をしています。内容はいかがですか？

非常に良い	84	61.3%
良い	39	28.5%
普通	7	5.1%
悪い	2	1.5%
とても悪い	0	0.0%
未記入	5	3.6%
合計	137	100.0%

【感想・意見】

- ・ 普段出会えない本があって良い。 (同様意見 他16件)
- ・ テーマごとの陳列の仕方が良い。 (同様意見 他12件)
- ・ ゆっくりと本を見ることができると雰囲気でもリラックスできた (同様意見 他3件)
- ・ 「書く人を増やす」 (カンツメブース) の取り組みが良い。 (同様意見 他1件)
- ・ ひとつの題材に絞った棚が良い。
- ・ 映画など、本と何かを結びつけるところが良い。
- ・ ラインナップに意外性が欲しい。
- ・ テーマをもう少し目立つようにして欲しい。 ⇒ テーマ見出しサインを新しいものに交換済み
- ・ 上の方にある本が見づらい。
- ・ 子供向けの本を増やしてほしい。子供連れだと図書館の方がいい。

【希望のテーマ、ジャンル等】

- ・ 子ども向けの本 (同様意見 他8件)
- ・ アート関連 (同様意見 他3件)
- ・ 地元の文化を扱った本 (同様意見 他2件)
- ・ フィクション (同様意見 他1件)
- ・ 映画、映像に関する本 (同様意見 他1件)
- ・ ファッション関連 (同様意見 他1件)
- ・ ノンフィクション
- ・ 絵本
- ・ 食事に関する本
- ・ ジャマイカやレゲエに関する本
- ・ 中国に関する本
- ・ 工芸に関する本
- ・ 文学作品
- ・ 英語やロシア語の本 (氷都として)
- ・ 諸外国語についての本
- ・ スピリチュアル関連
- ・ スポーツ関連
- ・ 恋愛に関する本
- ・ 韓国で出版されている本
- ・ 洋楽に関する本
- ・ Z I N E
- ・ 大きさやかたち、紙などにこだわった特徴的な本
- ・ 心理学の本
- ・ ポエム
- ・ ノーベル賞発表の時期に、過去の受賞者の作品を紹介するコーナー

※ ZINE とは、自作の文章や絵、写真などを少量印刷し、ホチキスなどで綴じた小冊子。

Q7 希望する企画事業の内容等（展示、トークイベント、ワークショップなど）

- ・ 学生を含む若年層が本と触れる機会となるイベント。（同様意見 他2件）
- ・ 朗読会 （同様意見 他1件）
- ・ 寺山修司に関するもの （同様意見 他1件）
- ・ 映画館とのコラボによるトーク （同様意見 他1件）
- ・ 地元の歴史に関する読書会など。
- ・ 西洋絵画に関する展示。
- ・ 絵本の原画展
- ・ 宮沢賢治に関するもの
- ・ 写真展
- ・ 太宰治に関するもの
- ・ 自分が読んだ本について、同じ本を読んだ人と語り合う会
- ・ ベストセラー作家のトークイベント
- ・ 東北にゆかりのある作家のトークイベント
- ・ ZINEのワークショップ
- ・ アイスホッケーに関するトーク（コーチのワシリーベルウーヒンなど）
- ・ スピリチュアルに関するトーク
- ・ ビブリオバトル
- ・ 読み聞かせ会
- ・ 昔の道具などに関する展示
- ・ 海外文学の本の読書会
- ・ 漫画家のイベント
- ・ ことばの裾野を広げるワークショップ
- ・ 絵本の書き方など
- ・ 星新一（小説家）のイベント
- ・ アート、芸術関連のイベント
- ・ 子供も来やすくなるようなワークショップ
- ・ 小説執筆に使用されるアプリ「カクヨム」の開発者トークイベント

【希望するゲストなど】

- ・ 奈良美智
- ・ 黒井健（絵本）
- ・ 藻谷浩介（日本総研研究員）

Q8 今後もブックセンターに来たいと感じましたか？

ぜひ来たい	68	49.6%
機会があれば来たい	42	30.7%
あまり来たいと思わない	2	1.5%
来ない	0	0.0%
未記入	25	18.2%
合計	137	100.0%

Q9 今後、ブックセンターにどのようなことを望みますか？

- ・長期継続を望む。（同様意見 他21件）
- ・同様の活動が他地域にも広がってほしい。（同様意見 他4件）
- ・本を増やして欲しい。（同様意見 他3件）
- ・PR、宣伝にもっと力を入れた方がよい。（同様意見 他3件）
- ・地域や各種施設との連携を続けて欲しい。（同様意見 他2件）
- ・読書席を増やして欲しい。（同様意見 他2件）
- ・ドリンクメニューを増やして欲しい。（同様意見 他1件）
- ・本の検索が出来る機能があると良い。（同様意見 他1件）
- ・カンヅメブース出身の作家さんが出たら素敵だと思う。
- ・このままゆっくりできる所であってほしい
- ・執筆や出版に関する支援を続けて欲しい。
- ・哲学のコーナーを続けて欲しい。
- ・若者が気軽に立ち寄りきっかけができれば。
- ・過去のイベントに参加できなかった人も楽しめる仕組みがあれば良い。
- ・ひとりになれる読書席が欲しい。
- ・勉強をするスペースがほしい
- ・特産品を使ったスイーツ
- ・コーヒーを飲めるなら紅茶もおいてほしい
- ・クレジットカードを導入して欲しい。⇒平成31年1月導入済み
- ・新聞広告等で話題となっている本を置いてほしい
- ・もう少しマニアックな本があった方が面白い
- ・入口が分かりづらい ⇒入口（2ヶ所）に看板を設置
- ・専用駐車場もしくは無料駐車券を導入して欲しい。
- ・ツイッター等の無料アプリによる宣伝 ⇒ツイッター、フェイスブック、インスタグラム導入済み

Q10 周辺施設で他に立ち寄る場所がありますか？（複数回答あり）

はっち	62	27.6%
図書館	8	3.6%
マチニワ	33	14.7%
市役所	5	2.2%
小売店（百貨店、コンビニ等）	44	19.6%
飲食店	38	16.9%
サービス店（理美容等）	1	0.4%
映画・娯楽施設	11	4.9%
その他	12	5.3%
立ち寄り場所なし	9	4.0%
未記入	2	0.9%
合計	225	100.0%

Q11 その他意見等

- ・落ち着いた雰囲気が良い。（同様意見 他10件）
- ・館内ツアーがあるのが良い。（同様意見 他3件）
- ・老若男女問わず、本好きの人が気軽に立ち寄れる場となって欲しい。（同様意見 他2件）
- ・本好きには大変良い場である。（同様意見 他1件）
- ・コーヒーがおいしかった。（同様意見 他1件）
- ・小中高校との連携が必要と思う。（同様意見 他1件） ⇒出張ブックトーク、ワークショップなどを実施中
- ・新刊が少ない印象を受けた。（同様意見 他1件）
- ・ドリンクの値段が高い。（同様意見 他1件） ⇒一部のドリンク値段を見直し
- ・今後も、知的好奇心をくすぐる本を紹介して欲しい。
- ・イスに腰掛けて本を読めるところが良い。
- ・企画事業の種類が多くて良い。
- ・図書館も充実させて欲しい。
- ・読書会ルームをもう少し入りやすくした方が良い。（テーブルや棚の配置）
⇒テーブル位置の調整、PR誌などの棚設置を実施
- ・難解な本が多い印象を受けた。
- ・市民がもっと積極的に参加できるようなまちづくりを。
- ・読書会ルーム内の声が騒がしかった。
- ・高所の本が自由に取れるように踏み台を増やして欲しい。 ⇒踏み台を追加配置
- ・図書カードが使えるようになると良い。
- ・市の公式ツイッターやフェイスブックの開設など、ネット社会にあわせた宣伝が大事。